

みんなで遊ぼう！
～遊びのルールや仲良く遊ぶための約束を考えよう～

提 案 三郷市立早稲田小学校 教 諭 比嘉亮太

1 はじめに

小学校特別支援学級は、1年生から6年生までの異学年の児童らが在籍しているため、児童の精神面や学習面の実態差が大きく、個別指導が教育課程の中心になる傾向がある。しかし、特別支援学級に在籍している児童達は、社会性やコミュニケーション力にも課題があるため、「個別最適化」だけでなく、人と関わりながら体験的に学ぶ「協働的な学び」も重要であると考えます。本稿では、「自立活動」における「個別最適化」と「協働的な学び」の具現化を求めた取組を報告する。

2 学校・学級の概要

(1) 学校の概要

本校は三郷駅から徒歩5分程度に位置しており、創立139年目の伝統ある学校である。全校児童数は380名であり、児童の雰囲気は全体的に落ち着いている。目指す学校像は「学び合い・認め合い・高め合い 笑顔あふれ夢を育む学校」である。

(2) 特別支援学級

本校の特別支援学級は知的障害特別支援学級（4組）1学級と自閉症・情緒障害特別支援学級（5組）1学級が設置されている。知的障害特別支援学級は2年男子1名、3年女子1名、5年男子1名の計3名が在籍しており、自閉症・情緒障害特別支援学級は3年男子1名、5年男子1名の計2名が在籍している。児童同士の関わり合いからトラブルになることが多く、些細なことで相手への「暴言」「挑発的な言動」が見られ、特に特別支援学級（4組と5組）間の人間関係が良好ではなかった。それぞれの障害特性だけでなく、人と関わる際のルールやマナー理解、他者理解の不足がトラブルの原因ではないかと考えた。

3 取組の実際

特別支援学級担任間で連携し、知的障害特別支援学級と自閉症・情緒障害特別支援学級の合同自立活動「みんなで遊ぼう！」を週に1時間設定した。毎時間、児童たちと集団遊びの内容、遊びのルール、仲良く遊ぶための約束を話し合い、授業に終わりに振り返りを行った。

(1) 話し合い活動

教師が司会となり、児童一人一人にやりたい遊びを質問し、黒板に書いていく。次に、児童たちが提案した遊びの中から、本時の遊びを決める。遊びの決め方は「多数決」、「じゃんけん」、「あみだくじ」、「ガチャガチャ」の順番で授業ごとに変わる。遊びが決まったら、鬼の数やチーム構成等、運動能力差があっても全員が参加できるための遊びのルールを話し合う。最後に、仲良く遊ぶための約束を児童一人一人に質問し、黒板に書いていく。思いつか

ない児童は、学級のルール掲示（図1）の中から選択する。
 （主に前時に課題となったことが本時の約束になる。）個々に出した遊びの約束は、全員の約束として本時の目標とした。

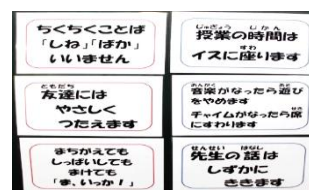


図1 学級のルール掲示

（2）集団遊び

勝敗にこだわりがあるため、参加できない児童は、審判やタイムキーパー役を与えた。ただし、強制的に参加させるのではなく、あくまでの児童の意思を尊重した。遊びのルールや、仲良く遊ぶための約束を守れない児童は、他児童からの非難の対象となりやすいため、はじめは簡単なルールにしたり、教師と一緒に活動したり、教師が意図的に負けたりした。授業の振り返りでは、仲良く遊ぶための約束（本時の目標）が守れたかを自己評価させ、本時の課題と次時の仲良く遊ぶための約束（次時の目標）を児童たちと確認した。

4 成果と課題

4月当初は児童同士の人間関係が悪く、話し合い活動をするために教室に全員入ることができなかった。また、児童が遊びのルールや仲良く遊ぶための約束を考えることができなかったため、教師が主導で決めていた。また、勝敗へのこだわりやルール理解が課題となっていたので、教師が鬼になって鬼ごっこをしていた。成果として授業の回数を重ねるごとに、集団遊びをイメージできるようになり、児童たちが遊びを提案できるようになった。しかし、異学年構成のため運動能力差があり、参加を嫌がる児童が出た。そのため、次の時間から話し合い活動の中で遊びのルールを工夫するようになった（鬼は低学年と高学年のペアにする等）。また、振り返りの中で、「遊ぶ前にトイレに行っておこう」「鬼にタッチされて怒るのは止めよう」「遊びには最後まで参加しよう」「砂遊びは止めて早く集合しよう」等、高学年が次時に向けて仲良く遊ぶための約束を提案するようになった。さらに、ある児童が、「仲良く遊ぶための合言葉を考えた！」と児童たちの前で発表してくれたので、その合言葉を特別支援学級全体の目標とした（図2）。7月に入ると、授業に全員参加できるようになり、児童同士の関わり合いからトラブルになることはほとんどなくなった。

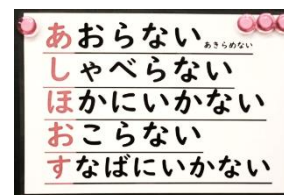


図2 仲良く遊ぶための合言葉

課題は、教師が主導で授業を行っていることである。今後は、話し合いの司会を児童に移行し、児童が主体で集団遊びをできるよう促したいと考える。

5 おわりに

知的障害特別支援学級と自閉症・情緒障害特別支援学級の合同自立活動を設定し、児童が自ら自身の課題に気づき、友達と関わりながら課題を改善することを通して「個別最適化」と「協働的な学び」を目指した。今後は、児童が自身の良い面にも気づき、伸ばしていける授業改善にも取り組んでいきたいと考える。